



むかしっから、あたしの辞書には「がんばる」という言葉が欠落している。そう言ったのは、お母さんだ。

「ほんつともう、中学生になるんだから、ちよつとは努力しなきゃだめだよつ。定期テストもあるし、部活だってあるし、そんなのんびりしてたらすぐに置いていかれちゃうよ！」

「わかった」

「塾は？ 塾も行った方がいいと思うよ。小学校のときみたいなのは通信教材はダメ。羽葉はちつとも提出しないんだから。お金をドブに捨てちゃったつて、お母さん後悔してるんだから」

「わかった」

「わかったわかったつて、羽葉がそう言つて、ちゃんとわ

かつてたためしなんかはないのよつ」

お母さんがキイイツとなる。

そう思うなら、言わなきゃいいのに。でもたぶん、お母さんもこれ、気分で言つてるから。

時々こうやつて「ちゃんとしろ」と興奮するけど、またすぐに忘れてハイキングの計画を立てたり、おいしいスイーツを発見したり、新しいダイエツトグッズを通販で買つては挫折して、「お金をドブに捨てている」のがうちのお母さんだから。

あたしのこの性格は、きつとお母さん譲りじゃないのになつて思つてる。基本、あんまり真剣に、物事を考えたりしないのだ。

作・安田夏菜
絵・大島千明